

提出日：令和 3 年 2 月 26 日
所 属： 獣医 学部 獣医 学科
氏 名： 藤野 寛 職位： 講師

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

教育活動として、主に獣医学科の学生を対象として微生物学（ウイルス）の教育を行っている。特に獣医微生物学実習では中心的に動いており、ウイルスの取り扱い・ウイルス感染価の測定といった基本的なウイルスの実技を教育している。研究室では所属する学生の卒業論文指導やゼミを行っている。その他に獣医学科 2 年次の担任を受け持っている。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医微生物学総論	獣医学科	必	2	140 人
獣医微生物学各論 I	獣医学科	必	2	140 人
獣医微生物学実習	獣医学科	必	3	140 人
獣医学特論（ゼミ）	獣医学科	必	5,6	12 人
総合獣医学	獣医学科	必	6	140 人
卒業論文指導	獣医学科・動物応用化学科	必	4,6	7 人
微生物学	動物応用化学科	必	2	140 人
科学の伝達（ゼミ）	動物応用化学科	選	4	1
専門ゼミ	動物応用化学科	選	3	1

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

研究室での指導においては、基礎知識に基づいた正確な実験手法の習得や科学的思考に基づいた実験・研究計画の作成が可能である様な学生が生まれることを目標としている。実際には、科学の基礎を理解し、基本的手技を身に付け、ある程度研究を自分で進めることが出来るようになってほしいと考えている。また、獣医学科では進路として臨床獣医師を考えている学生が多い点から基礎的な科目である微生物学実習に身の入らない学生が毎年数名認められる。実習においてはこういった基礎科目を苦手としている学生にも基本的な微生物の取り扱いを習得し、感染症学を理解してほしいと考えている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

講義及び実習においては毎回ミニテストを実施している。特にミニテストでは国家試験の過去問題などを出題することで、臨床系以外に興味を持たないような学生も微生物学の知識が重要であることを認識してもらおうとしている。また、ミニテストの内容を毎年少しずつ変えながら出題し、最終回で内容を配布している。翌年の学生が対策資料として手に入れ、ミニテスト対策として去年度の資料を勉強することでより理解を深めてもらうことを目的としている。また、研究室の指導では定期的に学生の手法を確認し、間違った手法が広まっていないかを確認している。卒論をすすめる際には大卒のゴールを設定し、それに至るための解析方法や考え方を話した後に、具体的な手法を学生に提案してもらいすすめるようにしている。特に条件検討などは学部学生には負担が大きいので、単にこちらの出した条件で実験するのではなく、一つ一つの実験で学生に考えてもらい、自分の時間を使って自分で考えた実験系を進めさせるようにしている。

アクティブラーニングについての取組

獣医学科ではコア・カリキュラムに沿って時間内に必要な事項を学生に伝達する必要があるため、学生による討論や積極的なやり取りを多く取り入れることは難しいと考えている。現在のところは定期的に学生に質問する等の方法で緊張感を保ってもらう等を実施している。

ICT の教育への活用

2020 年度はコロナ感染症対策の一環として多くの時間をオンライン講義で実施した。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（C）

②学生の理解度の把握（B）

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）

⑤双方向授業への工夫（C）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

理解度の把握においてはミニテストの実施や実習では部屋を回りながら学生の動きを見て引っかかっている所を確認できた場合は適時指示をしている。自主学習を促すための工夫としては前述のようにミニテストの資料を配布することで、翌年度の学生が対策資料として手に入れた前年度ミニテストを勉強することに期待している。学生とのコミュニケーション・質問への対応としては一般的な講義・実習後の質問受付やメールでの対応を行っている。双方向授業への工夫は現在特に取り組んでいる点がない。

<p>⑥ <u>国家試験対策としてどのような取組をしましたか。</u></p> <p>前述のように国家試験対策としては定期的にミニテスト内に国家試験の問題を出すようにしている。特に実習科目では直接的に国家試験に影響しないのではないかと考える学生が多いと考えられるので、そういった学生向けに実際に今行っている作業が画像問題などで出題されることを示すことによって実習へのモチベーションが少しでも高まるのではないかと期待している。</p>
<p>5. 学生授業評価</p>
<p>① <u>授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。</u></p> <p>授業評価では板書が読みにくいとの指摘があった。</p> <p>② <u>①の結果はどうでしたか。</u></p> <p>そのため板書ではなく、スライドを移して、その中で書き込みをする。あるいはスライド上で文字を表示させる等の方法で板書以外の提示法を実施した。これにより板書に関する問題はなくなった。</p> <p>③ <u>②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。</u></p> <p>スライド表示に関する問題では赤色の文字を用いて強調を示していたが、一部の学生から色盲の場合に赤色での強調は見にくいと指摘があった。今年度途中から実施していたが、来年度も同様に、強調部分は単に赤色だけでなく下線を引くなども加えることで色盲の学生にも内容が伝わるように配慮する。</p>
<p>6. 学生の学修成果</p>
<p>① <u>学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。</u></p> <p>前述の通りミニテストを行っている。また、ミニテスト資料を学生間で回らせることで事前に手に入れた資料により勉強するように促している。</p> <p>② <u>教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価</u></p> <p>特になし。</p>
<p>7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）</p>
<p>今回の教員活動状況報告書のもととなるティーチング・ポートフォリオの作成を含めて参加可能な FD 研修には参加している。</p>
<p>8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）</p>
<p>講義や実習に関しては国家試験合格率の向上と感染症に関わる必要な知識を身に着けた獣医師の育成を目的としている。研究室での教育に関しては前述の通り、科学の基礎を理解し、基本的手技を身に着け、ある程度研究を自分で進めることが出来るような学生の育成を目標としている。また、実験を行うだけでなく、発表面に関しても研究概要のまとめ方や提示する際のレイアウトを調整するといった訓練も兼ねて、卒業までに学会などの外部での発表を行わせることを目標としている。</p>
<p>9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ</p>
<p>麻布大学 シラバス 麻布大学 キャンパスプラン</p>